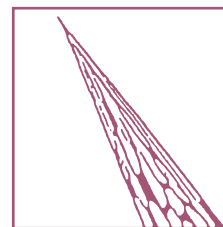
(ホームページ: <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp>)

Vol.27 No. 2 Mar.2002

広島大学附属図書館の電子化の現状

附属図書館 情報サービス課

インターネットの浸透、情報技術（IT）の進展等により情報流通環境が大きく変わり始め、慌てふためきはじめた頃からすでに幾星霜といった感がするほど、近年の情報流通環境の変化には目覚しいものがあります。いつの間にか電話にとって替わる程になった利便性の高いメール、膨大な数に上るホームページでの様々な情報のタイムリーなやりとり等々、その恩恵に預かるところが非常に大となっていることは誰しもが認めるところです。

こうした状況の変化は学術情報の利用環境にも大きな変革をもたらし、その対応を余儀なくされてきています。印刷出版物中心の従来型図書館機能にも多大な影響を及ぼし、電子化された情報に対応する機能、すなわち電子図書館的機能が強く求められるようになり、本学図書館においてもそうした機能の整備を積極的に進めてきました。その概要をここに紹介し、図書館の新たに整備されてきた学術情報サービスの現状を知っていただいて、教育、研究、学習等に十分に活用していただければと考えています。

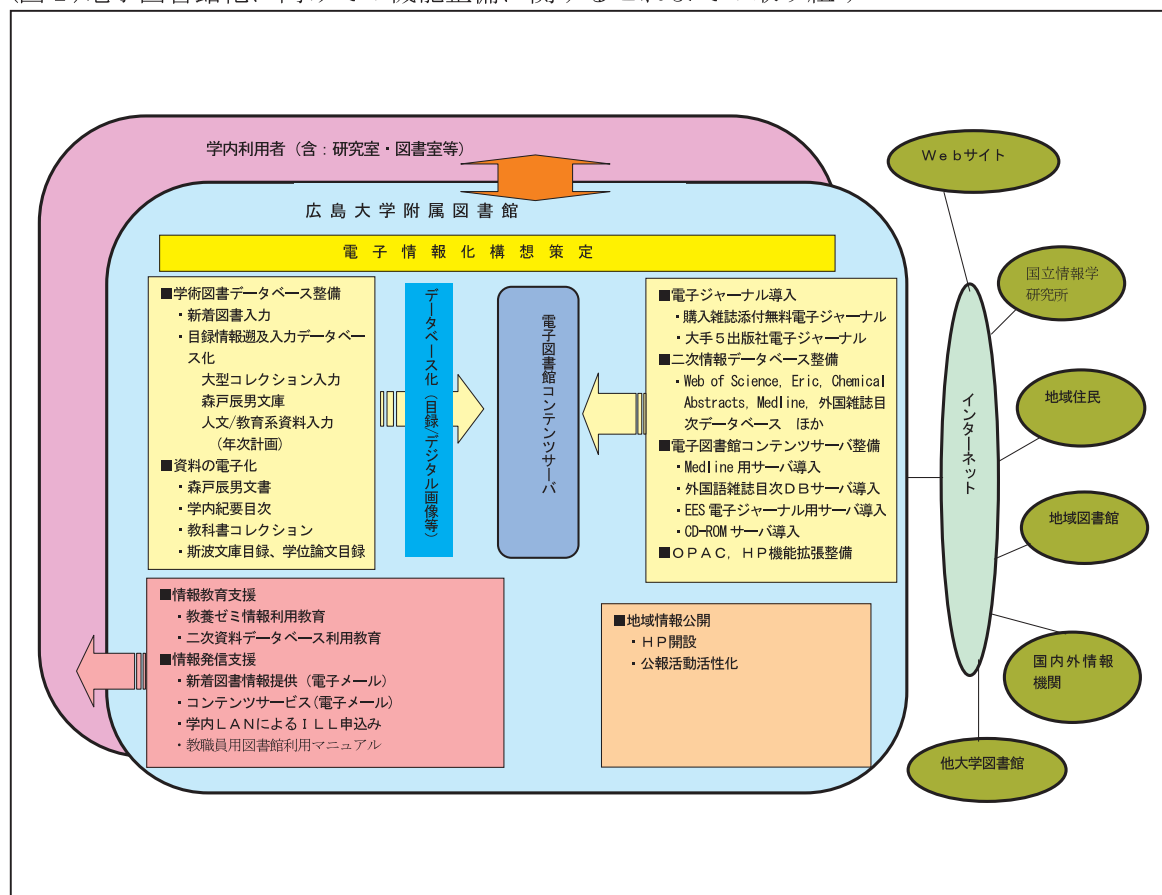
1. 電子化の経緯と概要

こうした状況を踏まえ平成9年4月から図書館の電子情報化についての検討を開始し、平成10年3月に、①貴重資料、紀要類の目次データベース化、学位論文のデータベース化を骨子とした資料の電子化、②図書館が所蔵する図書の目録情報の遡及入力によるデータベース化（OPACで検索するデータベース）、パソコン端末の整備充実等による情報利用環境の整備、③情報リテラシー教育等情報利用に関わる支援、④電子化に伴う組織の合理化と再編、等を骨子とした電子情報化構想「広島大学附属図書館の電子情報化構想」（<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/denshi/denshi.html>）を策定しました。以後、この構想に基づき、これまでに様々な取り組みをしてきています。その取り組みの状況を図1に示します。

目 次

○広島大学附属図書館の電子化の現状	1
○大いなる宝探しの夢 ―遡及入力とOPAC―	3
○ISI社の文献索引データベース等の導入について	8
○研修報告1 平成13年度大学図書館職員講習会	13
○研修報告2 総合目録データベース実務研修に参加して	13
○研修報告3 第42回中国四国地区大学図書館研究集会に参加して	14
○トピックス（2001年8月～2002年2月）	14

(図1)電子図書館化に向けての機能整備に関するこれまでの取り組み



この中には構想策定以前より実施されている事項もあり、平成7年度より随時整備されてきております。

2. 現状

これら機能整備がなされてきた事項のうち、いくつかについてその詳細をご紹介します。

(1) 学術図書データベース整備

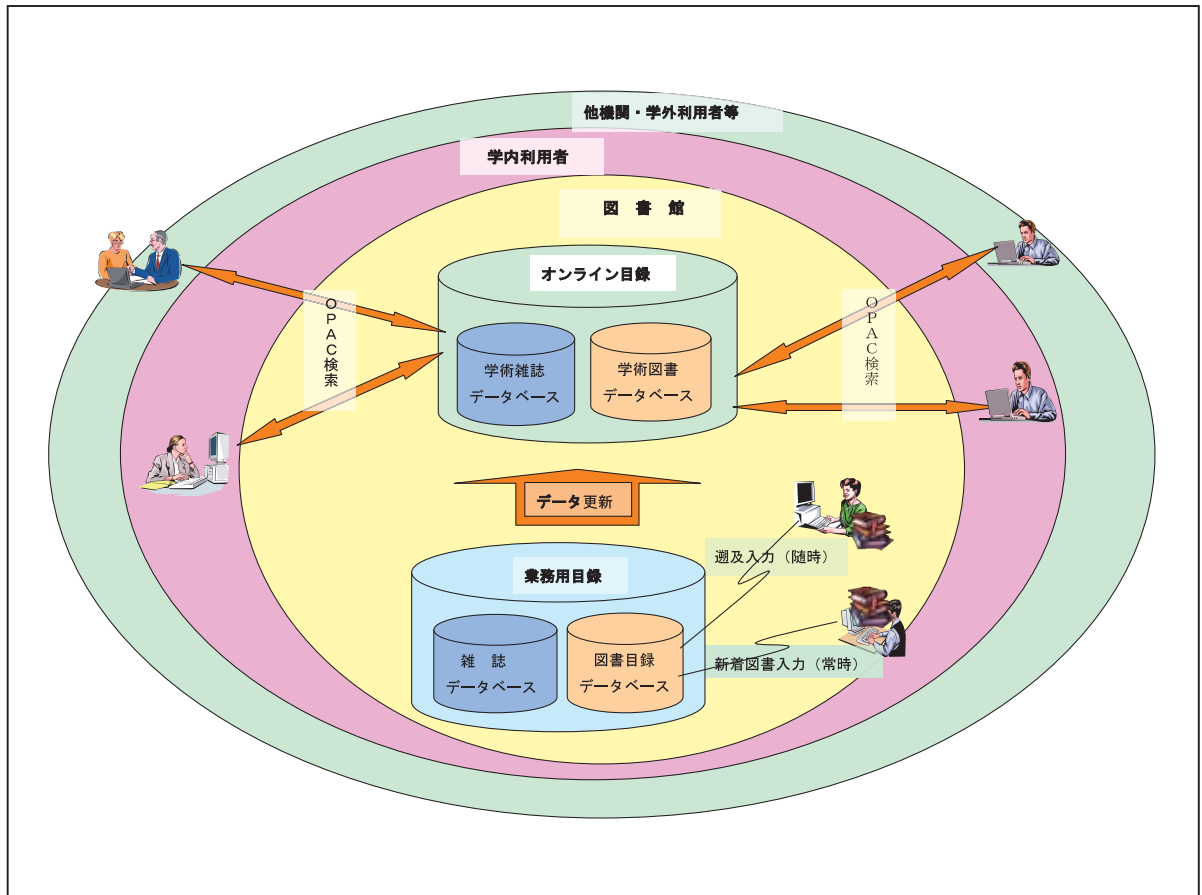
みなさんが本学所蔵資料(図書、雑誌)の所蔵場所を知るために日常利用しているオンライン目録(OPAC)は、学術図書データベースと学術雑誌データベースが情報源となっています。現在、学術雑誌データベースには全学所蔵雑誌の全書誌情報が蓄積されていますが、図書については、全国に先駆けて1972年より新規購入・寄贈分についてのデータベース化を開始し、すでに約112万冊の書誌情報が学術図書データベースに蓄積されて利用に供され、多いにその威力を発揮しているところです。ちなみに昨年の利用件数は(78万2千)件となっており、よく利用されていることが伺えます。

しかし残念なことに、蓄積開始以前の図書すなわち1972年以前にすでに所蔵していた図書約128万冊の殆どはまだデータベースに入っておらず、OPACでは検索することができない状況にあります。全学の所蔵図書を有効に利用する上で全ての図書についてデータベース化することは重要な課題です。このため、図書館では、平成8年度より未入力図書について年次計画のもとに遡及入力を進めることとし、当面、人文・教育関連図書を中心にデータベース化を進めているところです。遡及入力は日常業務の中で行うことは要員的に極めて困難であり、別途予算の手当が必要となることから入力期間、入力冊数等が制約されるため、随時処理とならざるを得ません。したがって、中期的な年次計画に基づいて実施することとしております。ちなみに現在までに遡及入力された冊数は13万9千冊となっており徐々に進んでいるところですが早期実現を目指して今後とも努力して行きたいと考えております。

図2に示すように新着図書は日常的に常時データが入力累積され、未入力図書の遡及入力は随時行われており、これらの累積データがオンライン目録の学術図書データベースに反映されて、みなさんにO

PACとしてサービス提供されています。

(図2) オンライン目録 (OPAC) 概念図



(2) 電子ジャーナル及び二次情報データベースの導入整備

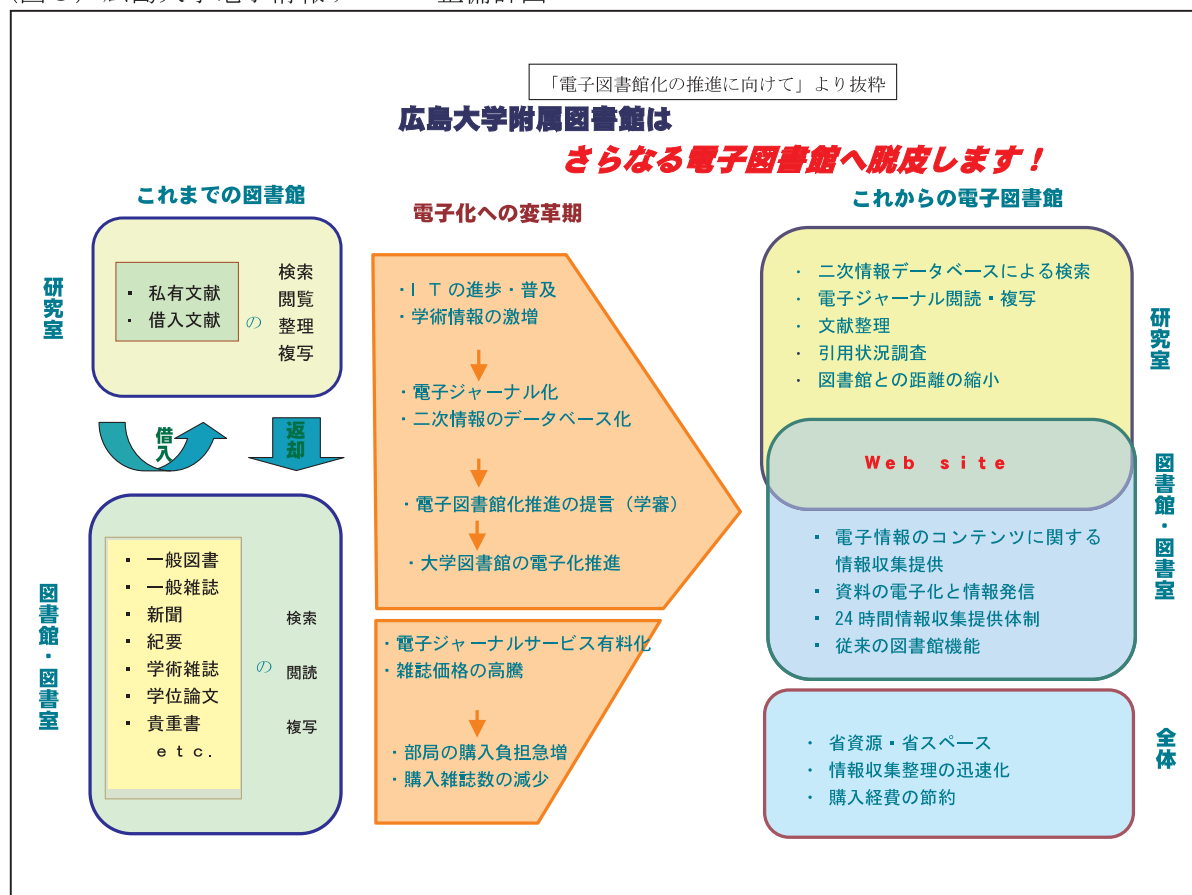
ITの進歩と普及による学術情報利用環境の大きな変革の影響を最も強く受け、早急な対応を図る必要がある学術情報資源として電子ジャーナルと二次情報データベースが挙げられます。この2つの電子情報整備は広島大学の学術情報基盤整備の核をなすものとして位置付け、先に述べた図書館の電子化構想に基づき、電子ジャーナルと二次情報データベースの整備に関する報告書「電子図書館化の推進に向けてー24時間情報提供体制の確立ー」(<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/denshika/suishin4.htm>) (平成13年7月)をまとめ、電子ジャーナル、二次情報データベースの導入・整備を鋭意進めているところです。

報告書では利用環境の変革について、①学術情報の流通環境が劇的に変化し、情報収集機能が飛躍的に向上していること、②学術情報が激増していること、③一次情報(原文)のリンクを容易にする二次情報データベース化の充実と利便性の向上が加速していること、④学術雑誌の電子ジャーナル化が加速していること、⑤本学の情報環境により、現在利用できる電子情報を教育・研究に活用している教官、研究者、学生の数が増大していること、⑥学術審議会において電子図書館化推進が提言されていること、等が挙げられるとしています。

さらに緊急に対策が求められるものとして、⑦雑誌価格高騰などにより部局の購入負担が急増し、本学の備える学術情報が減少傾向にあること、⑧激増する学術情報を迅速に事務的処理し提供するための人的資源が不足していること(情報提供の遅れ)、⑨増加しつづける学術資料の保管スペースが近い将来不足すること、等を挙げ、これらを踏まえた対応として電子ジャーナルと二次情報データベースの導入整備を早急に講じる必要があることとしています。

この全体計画の概略を図3に示します。

(図3) 広島大学電子情報サービス整備計画



1) 電子ジャーナル

ここ数年、学術雑誌の電子ジャーナル化が早い速度で進み、その傾向は益々加速し、増加してきています。電子ジャーナルの利点として、①図書館に出向かなくても学内であればいつ、どこかの端末からでもインターネットに接続できる環境があれば24時間自由にタイムリーにアクセスできること、②発行と同時にアクセスできるため冊子体のものよりもはるかに早く閲覧できること、③検索等の付加機能が整備充実していること、④リンク機能によって引用文献や関連情報への参照が迅速かつ容易であること、⑤冊子体のように保管スペースを必要としないため情報保存スペースの効率化が図れる、等があげられます。

このように従来の冊子体と比べて飛躍的に付加価値の高まった電子ジャーナルは、後に述べる二次情報データベースとともに本学の教育・研究支援するための学術情報基盤整備の核をなすものとして大きな役割を果たすと考え、導入整備を鋭意推進しているところです。

現在、広島大学では約3,000タイトルもの電子ジャーナルが利用できます。これらは、図書館ホームページ(<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/>) からアクセスできます。利用可能なタイトル数の内訳は表1のとおりです。タイトル名等の内訳は附属図書館ホームページでご確認下さい。

表1 広島大学導入電子ジャーナル利用可能タイトル数

出 版 社	名 称	タイトル数	備 考
Academic Press	IDEAL	210	
Blackwell Publishing	Blackwell	600	
Elsevier Science	Science Direct	1,230	
Wiley	Wiley Inter Science ERL	330	
Springer	Springer・LINK	480	
その他		150	

平成14年2月7日現在

2) 二次情報データベース

二次情報データベースは、①目的の情報を、②迅速に、③的確に収集する手法として、書籍や学術雑誌などの出版物の情報（タイトル、著者、要旨、出版年、出版社、雑誌名、引用回数、ほか）を整理しデータベース化したもので、キーワード等により目的の情報を得るものです。最近では電子ジャーナルにリンクしたデータベースもあり、迅速に最終目的の情報（論文）にアクセスできるものが増えてきて、その利便性は非常に高くなってきています。図書館では二次情報データベースの導入に際しては、①できるだけ多くの原著論文をカバーするものであること、②収載されている学術情報が共用性の高いものであること、③情報検索機能およびアクセスモビリティの高いものであること、④理系、文系の隔たりがないように配慮すること、等を考慮して導入を推進しています。

表2に現在導入サービスされている二次情報データベースの一覧を示します。

表2 導入整備されている二次情報データベース一覧

データベース名	内 容
Web of Science	引用文献データベース。全分野を包含。1997年からの文献を収録。約8,800誌の書誌情報が利用可能。電子ジャーナル本文へのリンクが可能。
SwetScan	世界の主要な外国雑誌約14,000誌についての目次をデータベース化したもの。全分野を包含。1995年以降のデータを累積。
Current Contents Connect(Internet)	8,000誌以上の雑誌タイトル、2,000以上の関連書籍・会議録から年間100万件以上の目次・書誌情報が7つの分野に分かれて収録。
MEDLINE	NLMが提供する医学関係データベース。1966年からの文献を収録。データ蓄積量は1,100万件以上。
Chemical Abstracts	1997年から現在までの化学系の代表的データベース。
Journal Citation Reports	インパクトファクターを収録。3,000社以上の出版社、7,000誌以上の雑誌タイトルから1,400万件以上のデータを収録。全分野を包含。
ERIC	1966年から現在までの97万件以上の書誌データ。教育系。
雑誌記事索引	国立国会図書館所蔵、1975年以降の雑誌記事索引のデータ約390万件、9,000タイトル収録。全分野包含
医学中央雑誌	国内発行の定期刊行物、約2,350タイトルから年間約27万件的文献情報を収録。医学関連。
科学技術文献速報	JOISの名称、化学技術文献速報の全内容を含む科学技術分野のオンライン検索システム。JICSTファイル、JMEDICINEファイルなど。

(3) 資料の電子化

学内紀要類、学位論文等、研究成果によって学内で生成される学術資料や、広島大学にのみ所蔵する貴重資料等については、学内だけでなく学外、海外等に向けて情報発信してその利用に供することが広島大学としての責務であると考えます。そのために資料電子化を継続的に取り組んでいくべき課題と考え推進してきました。これまでに電子化してきた資料の概要は**表3**のとおりです。

3 現在電子化されている資料の概要

データベース名	概 要
森戸辰男文書	元広島大学学長森戸辰男氏旧蔵資料「森戸辰男文庫」の一部である文書資料。片山・芦田内閣閣議資料、中央審議会関係資料、教育刷新委員会関係資料で、戦後政治史、教育史関連の史料として学術的価値が高いコレクション。このうち、「教育刷新委員会関係資料」と「中央教育審議会・総会資料」を画像データベース化。1,350点の画像データで構成。

教科書コレクション	教育学部の前身である広島高等師範学校、広島女子高等師範学校、広島師範学校、三原女子師範学校、広島青年師範学校の時代から蒐集された近世末から現代にいたる初等教育から高等教育の教科書コレクションの中から、江戸時代に寺小屋で使用された往来物から1951(昭和26)年までのもの約5,600冊を画像データベース化したもの。約96,000点の画像データで構成。
広島大学紀要目次	広島大学の紀要類のうち、現在17タイトルについて目次をデータベース化したもの。
斯波文庫漢籍目録	「広島大学斯波文庫」は、元広島大学文学部教授故斯波六郎博士旧蔵の『文選』及び中国六朝文学を中心とする、1,387点(9,720冊)からなる今日では入手し難い貴重な漢籍資料コレクション。この「斯波文庫」の整理を行い、四部分類法による目録の編纂刊行事業を計画、中国の伝統的な漢籍の目録法である四部分類法(経部、史部、子部、集部)により、整理、作成した目録を画像データベース化したもの。

おわりに

これまで整備導入してきた電子化資料は多くの方に利用されています。図書館は、このような様々な電子化を推進し、みなさんが本当に欲しい情報を膨大な学術情報の中からいつ、どこでも的確かつ迅速に収集提供できる学術情報利用環境を整備していくことが教育、研究、学習の支援機能として大きな役割を果たすものであると確信しております。多いに利用していただきたいと思っております。

おわりにあたってみなさんにお願ひがあります。

これらの電子的学術情報のなかでもとくに電子ジャーナルや二次情報データベースは非常に利便性の高いものです。世界中の学術雑誌膨大な情報等の中から簡単に必要な情報を得ることができます。まだ利用していない方は是非、図書館のホームページ (<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/>) を開いてみてください。そして実際に利用してみてください。きっとその便利さに惹かれることと思います。今後、学術雑誌の電子ジャーナル化は加速し、二次情報データベースとのリンクもさらに進んで利便性は益々高くなっていくことでしょう。きっとみなさんの研究や学習の大きな支えとなることは間違いないものと思っております。大いに活用されんことを願っています。

(板垣 護人)

大いなる宝探しの夢～遡及入力とOPAC

情報サービス課 情報サービス係

みなさんが講義や研究の課題に必要な資料を探すために、図書館あるいは自宅や研究室のパソコンから、OPACと呼ばれる蔵書目録検索システムを使っていることと思います。

でも、実際に図書館の書架にある資料でも、OPACでは見つからないものがあることをご存じですか？

<OPAC以外でも資料は探せます>

1980年代以降に図書館で受け入れた資料は、電算機入力を行いデータベース化しています。したがって新刊本などはOPACで探すことができます。けれども、電算機導入前に受け入れた資料は、いくらOPACで検索しても見つかりません。データベースに登録されていないからです。この場合、カード目録で調べる必要があります。

<カード目録の問題点>

カード目録は電算機を導入するまでの長い間、資料を探す手だてとして利用されてきました。しかしながら、カードゆえ不便な問題を抱えています。

- ・カード目録の設置場所が図書館内なので、図書館が開館している時間しか調べることができない。
- ・自分が探したいカード目録の箇所を他の人が先に調べていると、その人が調べ終わるまで待たないといけない。
- ・カード目録の並びは書名順、著者名順といった具合なので、これ以外のキーワードで探すのが難しい。
- ・探し当てたカード目録の内容を記録するにも、一枚ずつ書き写すしか方法がない。

<電算機入力による効果>

一方、電算機入力による蔵書のデータベース化には、どんなメリットがあるのでしょうか。

1. 自由なアクセス

OPACが使用できる時間帯であれば、図書館へ足を運ばなくても自宅や研究室のパソコンからOPACで検索することができます。またデータベースに複数のアクセスが可能なので、他人を意識することなく自分のペースで検索ができます。

2. 多彩なキーワードによる検索

書名や著者名だけでなく出版年やシリーズ名、その他いろいろなキーワードによる検索が可能です。二つの書名を組み合わせたり、さらに条件を絞ることもできます。またコンピュータによる検索なので、自分でカード目録で調べるよりも格段に早く検索結果を知らせてくれます。

3. 検索結果を容易に蓄積できる

検索結果を印刷できたり、あるいはパソコンで編集・保存することができるので、一つずつ書き写す手間が省けます。

<遡及入力の目的>

みなさんは「遡及入力」という言葉をご存じですか？ 耳慣れない言葉かもしれません。「遡」は「さかのぼる」。遡及入力とは文字どおり、過去にさかのぼって目録を電算機入力する意味です。

広島大学は、それぞれ歴史を持った幾つもの学校が統合され、現在に至っています。その過程で収集された資料の分野は幅広く、さまざまな時代のものが豊富に揃っています。

しかし、資料をただ集めるだけでは図書館は収納庫の一つにすぎません。身近にある資料の存在をみなさんに知ってもらい、大いに利用してもらうためには、データベース化の作業が欠かせないのです。

<将来に向けて>

携帯電話の普及率はめざましいものがあります。携帯電話が広まった理由として、場所や時間にとらわれず、通話以外にもさまざまな情報を手軽にやり取りできる点があげられるでしょう。

図書館の資料も同じことが言えます。ただ蓄えるだけでなく、データベース化を行い、みなさんがいつでもどこからでもOPACを通じてデータベースに気軽にアクセスできる。そんな環境をめざしています。その時はきっとみなさんが学問や研究に役立つ「宝」といえるような資料に出会えることでしょう。

しかし、遡及入力には多大な労力と経費が必要です。平成13年度は中央図書館を中心に約6万冊の遡及入力を行いました。図書館の全蔵書数約300万冊のうち、データベース化が完了した図書冊数は112万冊にすぎません。

私たちの貴重な財産を活かせる未来をめざして、図書館の長期計画の一環として今後も遡及入力に取り組んでいきます。

(岡田 英治)

ISI社の文献索引データベース等の導入について

附属図書館 情報サービス課

1. 導入の背景

本学図書館では、昨年度実施しました「データベース導入に関するアンケート調査」等で、特に要望の強かった、ISI社の引用文献索引DB「Web of Science」のトライアルを実施するとともに、利用説明会を昨年の6月と12月の2回にわたって、西条及び霞の両キャンパスに於いて開催しました。近年の大学等、研究機関に対する「評価」への関心の高まりと、文科省の提唱するいわゆる**トップ30大学**への関心と相まって、この「Web of Science, 1997-current」の導入が時宜を得たものとなりました。

同時に、目次情報データベースである「Current contents Connect, 1998-current」、引用統計データベース「JCRweb版, 2000」も併せて導入しました。

以下、それぞれの特徴と使い方を簡単に説明します。ご利用は、**図書館ホームページ**からアクセスしてください。

2. Web of Scienceの特徴と使い方

2.1 特徴

- ① 引用文献索引データベースで、
 - ・「ある論文がどんな論文を引用しているか」
 - ・「ある論文がどの（誰の）論文に引用されているか」
 - ・「ある論文の主題に関連した他の論文はないか」

Webのハイパーリンクを利用し、マウスをクリックするだけでデータベースに収録されている約8,800誌に掲載された論文の引用・被引用関係を、効率的に追うことができる。

ある文献を出発点として、その研究の基になった論文だけでなく、その研究に関係のある最新の論文を探し当てることができ、系統的に時間を前後する検索ができる。

- ② 主要学術雑誌約8,800誌以上を、自然科学、社会科学、芸術・人文分野の三つのデータベースに、それぞれ書誌情報、原著論文、編集後記、会議録、コメント、手紙、書評を収録している。収録誌の全ページを索引付けし、論文の全著者、著者抄録、引用文献、全著者の所属機関名・住所を掲載している。
- ③ 広島大学で購読契約している主要な電子ジャーナルとリンクしていて、その全文を閲覧する事ができる。

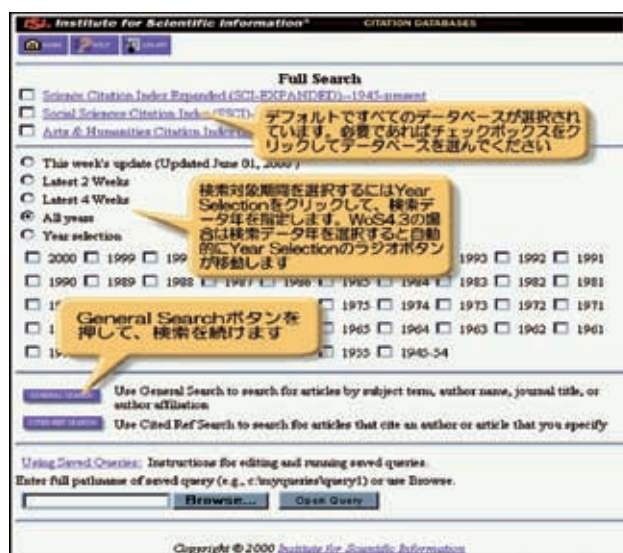
2.2 使い方

①LOGIN画面 通常「Full Search」を選択

②データベース、期間、検索方法を選択



終了時には必ず「LOGOFF」を！！



引用文献を調べるには Cited Ref Search を選択

①雑誌等の論題、著者名、雑誌名、著者所属機関名等から検索する。

②検索結果の一覧表示 文献のタイトルをクリックすると詳細が表示されます。

検索式を図にあるように検索フィールドに入力します。簡単な例が入力されています

11件目以降のレコードを見たい場合はこのナビゲーションボタンを押します

Marked Listにレコードを追加登録する場合は、Mark Allを押すが必要なレコードにチェックを付けSubmitを押します。(WoS 4.1の場合はMark Allで、そのページの全レコードが指定できます)

文献タイトルをクリックするとフルレコードをご覧になれます

該当レコード数は画面下に表示されます。表示可能レコード数は500です

③文献の詳細表示 引用文献、被引用文献、参考文献、電子ジャーナルがリンクされている

④引用文献（参考文献）の表示

MarkまたはUnmarkのボタンを押すとMark (Marked Listへの登録) を付けたりはすしたりできます

Related Records(関連レコード) ボタンを押すとこの文献と同じ引用文献を引用した他の関連文献が検索できます

Cited Referencesを押すと引用文献リストが表示されます。Times Citedを押すと当該文献を引用している文献のリストが表示されます。

Author Keywordsは著者によって付与されています。KeywordsPlusは引用文献のタイトルから切り出されたものです。すべてのレコードにKeywordsや抄録が付与されているわけではありません。

Search Resultsボタンを押すと、フルレコードに戻ります

Related Recordsボタンを押すと、これらの引用文献と同じ文献を引用した他の関連文献が検索できます

Web of Scienceの中にフルレコードがある文献には、アンダーラインがつき直接フルレコードにリンクできます

ときどきアンダーラインがついていない文献があります。単行本や学位論文などのモノグラフやデータベースの収録対象になっていない雑誌の文献は、フルコードにリンクしません

2. 4 CITED REFERENCE SEARCH

- ①引用文献の検索 被引用者名、被引用出版物名、出版年を入力し、LOOKUP ボタンを押す
- ②被引用文献の一覧から該当文献を選び、SEARCH ボタンを押す

Left Screenshot: Cited Reference Search Form

ISI Institute for Scientific Information® CITATION DATABASES

Cited Reference Search

STEP 1: CITED REFERENCE LOOKUP

Enter individual search terms or phrases separated by OR

Display list of cited references containing terms entered below.

Save the search as entered below for future use.

Clear all search terms entered below.

CITED AUTHOR: Enter cited author name, or initials
cahoon d*

CITED WORK: Enter 20-character title abbreviation
nature*

CITED YEAR: Enter one or more 4-digit years as
1991-1992

Display list of cited references containing terms entered above.

Save the search as entered above for future use.

Clear all search terms entered above.

Copyright © 2000 Institute for Scientific Information

Callout Box 1 (Left): 文献の著者から検索する場合は、名前のイニシャルにワイルドカードをつけて検索してください。雑誌名などから検索するときも、省略形などを考慮してワイルドカードを利用します。必要な条件を入力したらLookupボタンを押してください

Right Screenshot: Search Results

Cited Reference Search Results

Cited Author=cahoon d*, Cited Work=nature*, DocType=Database=SCI-EXPANDED, Timespan=1991, 1992, 1993 (sorted by latest date)

Page 1 (Articles 1 -- 10):

☐ Chavez
IN1
as determined from satellite observations
J ATMOS CHEM 36: (2) 135-155 JUN 2000

☐ Liu XD
Biometer training in southern Africa: atmospheric particle characterization of atmospheric aerosol and aerosol fine samples
J ATMOS CHEM 36: (2) 135-155 JUN 2000

☐ Rajeev K, Ramaniathan V, Meyersink J
Discrepancies between model-calculated and observed shortwave atmospheric absorption in areas with high aerosol loading
J OBOPHYS RES-ATMOS 104: (D22) 27361-27371 NOV 27 1999

☐ Wahl M
Quality and composition in Singapore
J ATMOS CHEM 36: (2) 135-155 JUN 2000

Page 1 (Articles 1 -- 10):

38 of 7997551 documents matched the query.

Callout Box 2 (Right): 11件目以降のレコードを見たい場合はこのナビゲーションボタンを押します

Callout Box 3 (Right): Marked Listにレコードを追加登録する場合は、Mark Allを押すか必要なレコードにチェックを付けSubmitを押します。(WoS 4.1の場合はMark Allで、そのページの全レコードが指定できます)

Callout Box 4 (Right): 文献タイトルをクリックするとフルレコードをご覧になれます

Callout Box 5 (Right): 該当レコード数は画面下に表示されます。表示可能レコード数は500です

注：1996年以前に出版された論文でも、1997年以降に一回でも引用された論文は収録される。著者名等は、オリジナル文献に記載されているとおりに採録されている為、スペルミス、誤植等がそのまま反映されているので、LOOKUP 結果の吟味が必要。

3. C. C. C. (Current Contents Connect) の特徴と使い方

3. 1 特徴

- ①世界の主要な約 8000 誌の学術雑誌及び 2000 冊以上の最新書籍を厳選、収録した目次情報データベース。
- ②データベースの特徴
 - ・Daily Update：毎日データを更新。過去3年間のバックファイルとカレント年を収録。
 - ・検索機能：論文タイトルや著者名その他、主題、分野、著者所属機関等で検索。
 - ・Current Web Contents：厳選された学術サイトへリンク。
 - ・Alert 機能：登録された電子メールアドレスへ検索結果を毎週配信。
 - ・eSearch 機能：Web上で提供されているプレプリントや学位論文のフルテキスト、Meeting Information, Proceeding 情報、研究活動情報、Funding Information 等のページが検索可能
- ③他の情報源とのリンク
本学導入済みの ISI 社の引用文献データベース「Web of Science」、電子ジャーナル（本学契約分のみ）とリンクし、論文のフルテキストが閲覧可能。
- ④NCBI が提供する、GenBank Protein sequence と DNA database へリンク

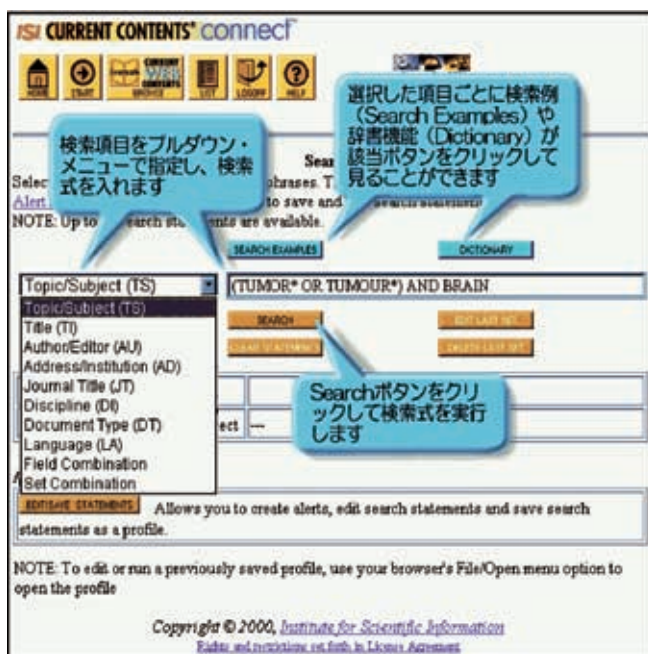
3. 2 使い方

①Search and Browse Limits

LOGINした画面で、検索や通覧対象のファイルと期間を選択し、「Submit Limit Changes」ボタンを押す。

「BROWSE」アイコンをクリックすると、収録されている雑誌の一覧が表示されます。雑誌名をクリックするとその雑誌の目次を通覧でき、目次をクリックすれば、さらに詳細を閲覧できます。

②検索画面 検索項目を選び検索語を入力し、SEARCH ボタンを押す。



③検索結果一覧 該当論文をクリックし、詳細表示。



「View Full Text」鈕で電子ジャーナルへ、「Go to Web of Science」鈕で WOS ヘリンク

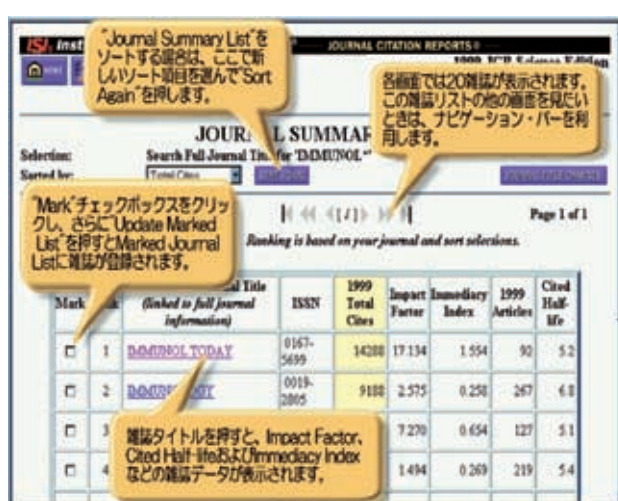
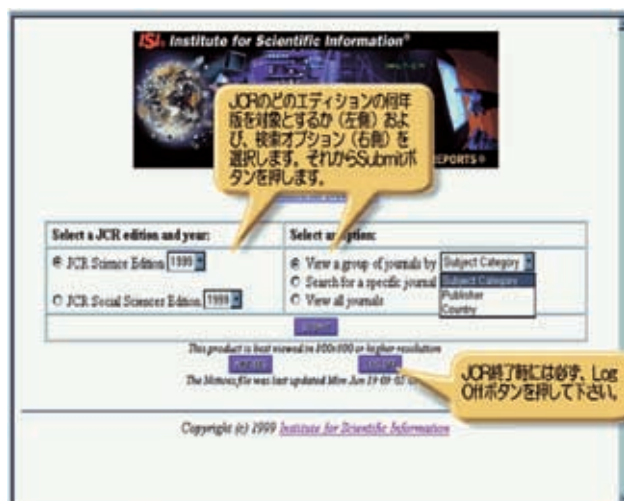
4. J C R (Journal Citation Reports) の特徴と使い方

4. 1 特徴

- ①自然科学・社会科学雑誌のそれぞれの専門分野における 7,000 誌以上の雑誌から得られた引用文献索引データベース。
- ②Impact Factor：被引用率により最も影響力の高い雑誌を知ることができる。
- ③Immediacy Index：即時性・ニュース性の高い雑誌を知ることができる。最もホットな雑誌。
- ④Total Cites：世界でもっともよく引用されている雑誌を知ることができる。
- ⑤他の情報源とのリンク：Web of Science からリンクし、Impact Factor の 5 年間の経年変化がグラフに表示される。

4. 2 使い方

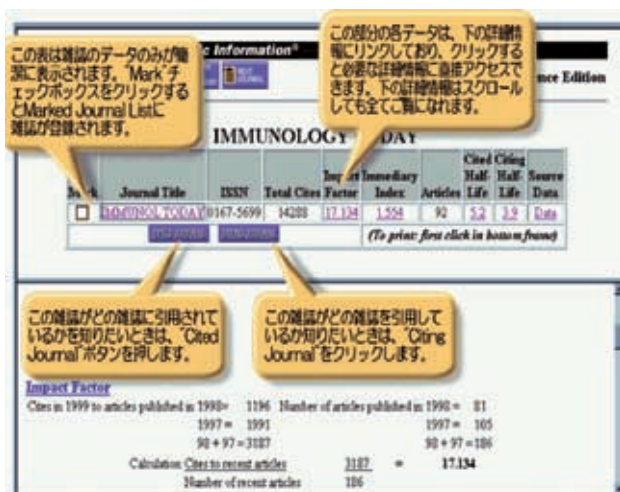
- ①自然科学又は社会科学を選択する。
- ②Journal Summary List。誌名順、Impact Factor 順、Total Cites 順等の一覧を作成できる



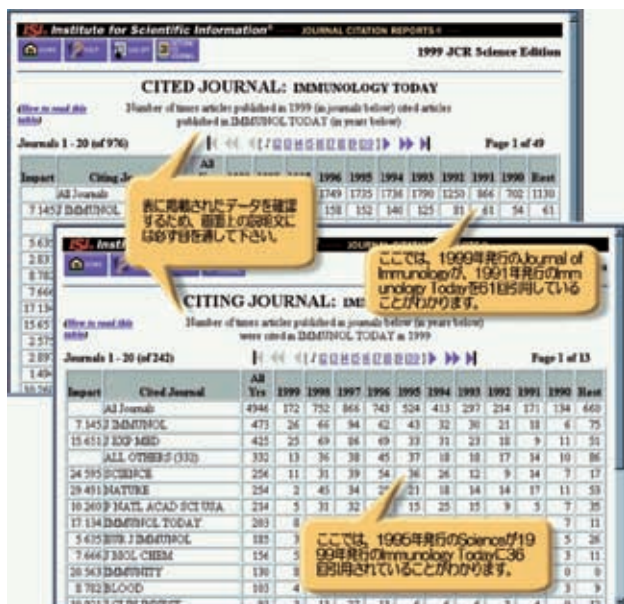
③特定の雑誌毎に引用、被引用検索ができる



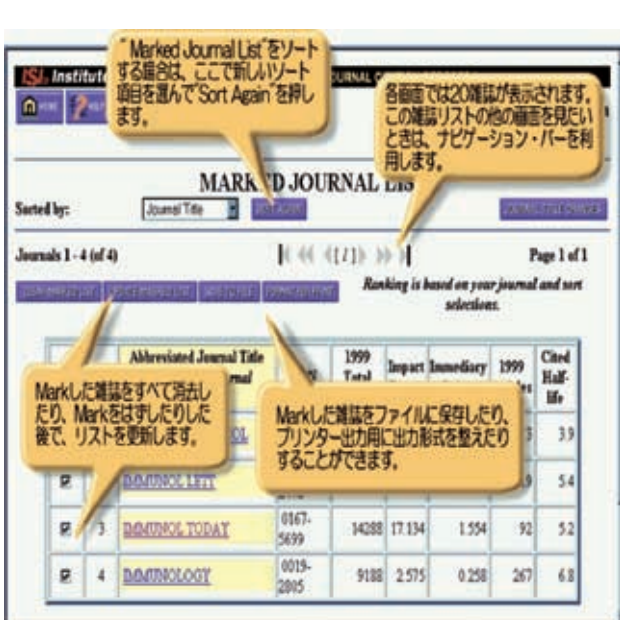
④特定の雑誌について詳細表示



⑤Cited Journal 被引用(引用された)雑誌一覧
Citing Journal 引用(引用した)雑誌一覧



⑥Marked Journal 選択し、マークした雑誌を一覧し、Impact Factor 等比較できる。



利用上の注意 (重要)

1. 利用できるのは学内の方のみです。 図書館ホームページからアクセスしてください。
2. データは著作権法で守られています。検索結果得られたデータを論文等で公表する場合は、必ず出典を明記してください。
c f : 「このデータは I S I 社の Web of Science から抽出したものです。」
「出典 : ISI Current Contents Connect」 ... e t c .
3. 検索結果をEメールで送ることができるのは、自分及び学内の方のみです。直接・間接を問わず他機関の方への送信はできません。
4. 利用を終わる場合は、必ず「LOG OFF」のボタンを押して終了してください。

おわりに

上記二次情報データベース群は、いずれも本学の教育・研究を推進する上で必要不可欠なものです。この度、本学における学術情報基盤整備の一環として全学のご理解とご協力を得て導入することができました。同時に主要な外国雑誌の電子ジャーナルを導入することで、これらの二次情報データベースから一次情報を取り出すことが可能となり、さらに高度な情報基盤が整備されることになりました。今後も、二次情報データベース及び電子ジャーナルの充実・強化を推進する予定です。(諸富 秀人)

研修報告1 平成13年度大学図書館職員講習会

情報管理課雑誌情報係 片岡 真

大学図書館職員講習会は、3年以上の実務経験がある国公立大学の図書館職員が参加する講習会で、毎年文部科学省が開催しています。今年度は東京大学附属図書館と大阪大学附属図書館が会場となりましたが、私は大阪会場へ11月6日～9日の日程で参加してきました。

講習の中心は、大学図書館の第一線で活躍されている方々による講義でした。大学改革の波が押し寄せる中で、いま図書館も改めて大学の中での役割が問われています。また資料の形態も従来の図書や雑誌に加え、インターネットを通じて提供されるオンライン・ジャーナルや電子コンテンツが登場し、にわかに活気を帯びています。そのなかで図書館は、教育支援として授業の中で直接活かせるような蔵書構築や情報サービスを行い、研究支援としては先端的な研究情報を確実かつ迅速に研究者へ配信して行かなくてはなりません。講義では、こうした現在大学図書館が直面している問題について、現状報告や提案、先進的な取り組みをする大学からの報告などがありました。具体的には、冊子体資料、電子資料をどのように保存、提供して行けばよいのか、オンライン・ジャーナルを実際どのように導入し、契約して行けばよいのか、電子的資料やFAXによる文献複写送信に関する著作権はどのようにするのか、大学での学習や研究に必要な情報リテラシー教育に図書館とし

てどう関わって行けばよいのか、生涯学習社会の実現に向けて、大学図書館はどのような役割を担って行けばよいのか、というような事柄がテーマになっていたように思います。その他、10人ずつのグループに分かれての共同討議も行われました。私たちのグループテーマは「大学図書館における情報リテラシー教育のあり方について」だったのですが、それぞれの大学での組織改革や電子ジャーナルの予算捻出についての話で盛り上がりすぎてしまいました。普段なかなかこういう機会がないので、いろいろ情報交換できてよかったのですが、発表にはちょっと苦労しました。

講習が終わってみて、やはり日常業務を離れて大学や図書館全体の視点から自分の仕事を見つめ直すことも重要だと感じました。日々の仕事に追われていると、いつの間にかそれに慣れきってしまい、目先のことしか見えなくなってしまう... そんなことを考えさせられました。また、何人か他大学の方と知り合うこともできました。広大を修了して他大学の図書館で活躍されている方などもおられ、なんだか頼もしい気がしました。

最後に、私がこの講習に参加するにあたりご尽力いただいた上司の方々、講習期間中私の分まで仕事をしていただいた係の皆さま、どうもありがとうございました。

研修報告2 総合目録データベース実務研修に参加して

図書目録情報係 花川久美江

平成13年10月29日から11月9日まで、国立情報学研究所(NII)が行う総合目録データベース実務研修・目録担当者コースに参加しました。この研修の目的は目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)の参加機関において、目録担当者の中核となる人材を養成することです。今回12名の国・私立大学の図書館員が、東京都千代田区一ツ橋のNIIで2週間の研修を受講しました。

研修では、目録所在情報サービス及びそれに関連する講義・共同討議、他機関の見学、講習会補助、班に分かれての演習等を行いました。研修のカリキュラム、研修風景、成果は、NII総合目録データベース実務研修で公開されています。(URL: <http://www.nii.ac.jp/hrd/HIML/Db/>)

研修中とりわけ印象に残り、成果として前述のURLで公開されている演習について報告します。演習は3班に分かれて、班毎に課題1. スキルアップのための研修プログラム及び対応する検索・登録課題の作成、課題2. 目録システム講習会や自習用の検索・登録課題の作成に取り組みました。私は中国語図書コースになり、班員4人は中国語資料を専門に目録を採っていないだったので、自分たちもぜひ受講したくなるような研修プログラムを作成しようと話し合いながら課題1の作業を進めました。まず、対象者を中国語図書入力未経験者とし、到達目標を中国語図書の書誌新規作成と決め、カリキュラム編成を考えました。また、

プログラムに沿った実習課題の作成に、事前のメールにより収集した中国語図書の情報源を活用することができ、他の班員が持ち寄った情報源を合わせて、カリキュラムが進行するとともに難易度が上がる実習課題を作成することができました。

課題2については、中国語図書以外の機械的な検索ではヒットしないような例、経験上教育にふさわしいと思われる例等、各自持ち寄った資料で、難易度、ねらい、課題とするための条件を話し合いながら作成しました。課題作成後は各班毎の発表会があり、NIIの方との質疑応答も班員の結束で乗り切りました。

演習は共同作業だったので、いろいろな事例、注意点を勉強でき、また、日常業務で抱える問題点、他大学の事情も聞きながらの課題作成はとても有意義な演習でした。

さて、NACSIS-CATとはオンライン共同分担目録方式による全国規模の総合目録データベース(図書/雑誌)を形成するシステムです。私は、NACSIS-CATにデータを作成・登録する仕事をしています。この研修で特に目録の品質管理について学び考えさせられました。研修を契機にNACSIS-CATの品質向上のために努力していくつもりです。

最後になりましたが、2週間の長きにわたる実り多い研修に参加させて下さいました皆さまに感謝いたします。

研修報告3 第42回中国四国地区大学図書館研究集会に参加して

情報サービス係 尾崎文代

平成13年10月24日から26日にかけて、高知大学附属図書館を当番館として開催された第42回中国四国地区大学図書館研究集会に参加させていただきました。

今回のテーマは「生涯学習と大学図書館」ということで、40大学から48名の参加があり、大学図書館を地域に開放し、生涯学習を支援して行くためにどのようにしていけばよいか、サービス・管理の両面からの討議および研究発表が行われました。

今回、私は研究討議第2分科会「大学図書館の資料収集のあり方」に参加し、司会のお手伝いをさせていただきました。地域開放を視野に入れた選書を行っているという実例は多くなかったものの、電子化に適当な資料を選別し市町村に寄贈、寄託および共同での電子化をもちかけている

大学図書館のお話や、一般利用者のことを考えた選書の試みをされている大学図書館のお話を伺うことができました。

2日間にわたる討議を終えて考えたことは、大学図書館は公共図書館との間でお互いの独自性を打ち出しながら地域へ開放していくことが望ましいということです。そのためには、公共図書館との連携を深めていくことが必要であり、OPACの横断検索などは一つの有効な手段となりうると思います。

最終日には開館1年目の高知大学メディアの森を見学させていただきました。学生さんが日常的にノートパソコンを閲覧機の情報コンセントに接続する姿を見て、図書館と情報教育の密接な結びつきの必要性を強く感じ、有意義な研究集会となりました。

● ト ピ ッ ク ス ●

(2001年8月～2002年2月)

★大韓民国慶北大学校中央図書館金宗吉館長他来館 (8月22日)

同館長及び嶺南文化研究院朴性鳳院長が来館。両図書館間の相互協力等について懇談。

★遠山文部科学大臣来館 (9月21日)

岸田副大臣と伴に来館され、教科書画像データベースを見学された。

★教科書画像データベース公開記念式典及び記念展示会を開催 (9月28日～30日)

本年5月の公開を記念し、広島県大学図書館協議会との共催で開催。28日に記念式及び記念講演、同時に30日まで、パネル展示及び江戸時代の往来物等貴重な教科書約150点を展示。展示会には、一般市民等広範囲から見学に来館。

★報告書「電子図書館化の推進に向けてー24時間情報提供体制の確立ー」を発行 (10月10日)

★フルブライト・メモリアル基金アメリカ人教育者一行40名が来館 (11月19日)

4グループに分けて図書館案内ツアーを実施。

★「Web of Science」導入 (12月1日)

かねてより研究者からの強い要望によりWOSを導入した。

★「Web of Science」の利用説明会を実施 (12月6日)

本年6月に引き続き、中央図書館、東図書館、西図書館、医学分館の4カ所で実施。

★「JCR: Journal Citation reports」Web版を導入 (1月1日)

従来、NSCD-net CD-ROMサーバシステムにより提供してきたJCRをWeb版に切り替えた。別途導入したWOSと相互にリンクし、より使い勝手をよくした。

★「Current Content」Web版のトライアルを実施 (～3月末)

★大韓民国慶北大学校と「交流協定」締結 (1月22日)
館長、事務部長は、慶北大学校中央図書館を訪問し、日本語、韓国語、英語の3カ国語による「図書館交流に関する協定書」を取り交わした。

★01年度第二回館内職員研修会を開催 (2月28日)

記念講演、研修報告、Current Contents Web版の図書館員向け利用説明会を実施。

広島大学附属図書館報「リエゾン」 Vol.27 No.2 2002年3月31日 発行

発行 広島大学附属図書館 〒739-8512 東広島市鏡山1丁目2-2 電話 (0824)24-6200

編集 広島大学附属図書館広報委員会